

(中編)

エッフェル塔

Tour Eiffel

所在地 : Champ de Mars, 5 Avenue Anatole France, 75007 Paris



「・・・無用にして醜悪なるエッフェル塔の建設に対し、また危機に瀕したフランスの芸術と歴史の名において、あらん限りの力と憤りを込め、ここに抗議するものである。(中略) エッフェル塔が、黒く巨大な工場の煙突のごとく、目がくらくらすような馬鹿げた塔がパリを見下ろし、野蛮な塊でノートルダムやサント・シャペル、ルーヴル宮や凱旋門といった建築を圧倒し、われらがすべての記念建造物を辱め矮小化して唾然とさせるような夢幻の中に消滅させてしまうことを想像すれば、われわれ

の主張を納得できるはずである。これから 20 年間は、幾世紀も前からその精気を沸き立たせてきたパリ市全域に、ボルト締めされた鉄製の醜悪な円柱の影が、まるでインクのシミのように長々と横たわるのを見る事になるでしょう。パリを愛しその美化に努め、行政の手になる破壊や産業界の蛮行から幾度もこれを守ってきた皆さん、皆さんこそは今一度、このパリを守る栄誉の担い手なのです。」

これは 1880 年代当時、エッフェル塔建設に対する知識人らの抗議文です。塔の建設に対し数多く芸術家や知識人らの反対があったということです。今ではパリにとっては無くては成らないシンボルになっているのに、当時はこのような考えを持っていた人々が建設に反対したということに全く驚かされます。

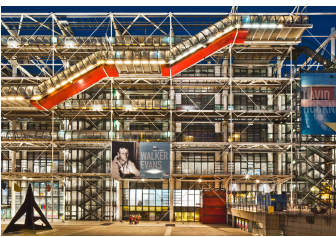
塔に登ってパリの街を鳥瞰するため、地上入り口から階段で 2 階（日本では 3 階になる）の展望台に登って感じたことは、エッフェルタワーは鉄でできた迷路のようだと言うことです。高さ 324m のエッフェル塔に使われている鉄の量は 7300 トン。高さ 333m の東京タワーは 4000 トンなので東京タワーよりはるかに多くの鉄が使われています。

写真右手の“ボルト締め”された鉄の塊は、遠くから眺めると世界中の人を魅了する優美なタワーの曲線を描いているのです。

ポンピドゥーセンター

Centre Pompidou

所在地 : Place Georges Pompidou, 75004 Paris



引き続きパリ知識人の間で物議を醸し出した建物の話です。この建物は国立近代美術館を中心とする芸術・文化の総合施設で、近代芸術の愛好家であったジョルジュ・ポンピドゥー大統領の構想により 1977 年に開館されました。ビル建設中の足場のような鉄パイプむき出しの外観に、当初は歴史ある建物が立ちならぶ「パリの美観を損なう前衛芸術」、「配管設備のノートルダム」、「芸術の倉庫」、「石油精製工場」「文化のがらくた置き場」など手厳しい揶揄の対象になりました。しかし、開館当初は 1 日 5 千人の来館者を予定していましたが、実際にはこの 4 倍の 2 万人に達し、開館 8 年後の 1985 年には所蔵品が 2 倍に増えたため美術館全体が改装され、現代芸術の展示面積が 3 倍になったということです。どうやら、批判を受けるということは良い結果を生むことになるようです。

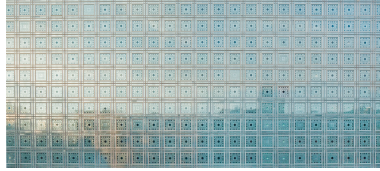
現在、同センターの国立近代美術館には 20 世紀を中心とした近代・現代の絵画をはじめとする 100,000 点以上の作品を所蔵し、近現代美術のコレクションとしては欧州最大、世界的にもニューヨーク近代美術館 (MoMA) に次いで第二の規模になっています。

建物は全長 45m、7 階建です。写真の赤い部分は外にむき出しになっているエスカレーターの腹の部分です。また写真中程下部に数人の人が写っているので建物の大きさを推測できます。

アラブ世界研究所

Institut du monde arabe

所在地：1 Rue des Fossés Saint-Bernard, 75005 Paris



アラバスクという言葉を知っていますか？イスラム美術の装飾模様のこと、その模様の構成要素として幾何学的なものや植物の図案などがよく用

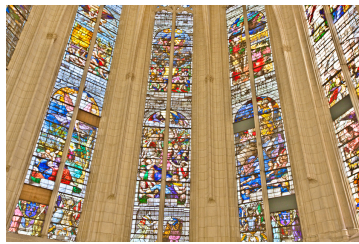
いられています。唐草模様と言えば分かりやすいでしょう。模様は左右上下に連続して繋がっていくように考案されています。イスラム教ではキリスト教や仏教のような偶像崇拝が禁止されているので、アラバスク模様のタイルやそのパターンを石の壁に彫刻することによって模様の広がりを作り宗教施設としての荘厳さを生んできました。そんなアラバスク風の模様を取り入れた建物がパリ第6大学（ソルボンヌ）近くのセーヌ川左岸に面して佇んでいます。

この建物はアラブ世界研究所と呼ばれ、フランスとアラブ世界の交流を目的に1987年に開館しました。この建物の特徴は壁面全体を覆うガラス窓に取り付けられたアルミパネルで、それぞれのパネルにはカメラの絞りのように開閉することで採光の調節を行う仕組みが施されています。このパネルを取り付けたガラス窓数百枚が壁面全体に広がっています。展示の写真からはこの建物の大きさを想像することは難しいですが、参考までに、一つのパネルの大きさは一つのフロアの高さになるので人が立って歩ける十分な高さとなると2mから3m程度はあると思います。外の広場に立つとアラバスク模様に包まれた不思議な感覚になります。

ヴァンセンヌ城の礼拝堂

Sainte Chapelle de Vincennes

所在地：Avenue de Paris, 94300 Vincennes, France



この礼拝堂に入った瞬間に思うことは、明るいということです。それもそのはず、ガラス窓やステンドグラスが建物の壁面に占める割合が異常に広くて光がさんさんと入ってくるのです。ステンドグラスが醸し出す絵も色も全く古臭い感じがしません。

ノートルダム大聖堂のあるセーヌ川中洲のシテ島のサント・シャペルをモデルとしてこの礼拝堂が作られました。それで、こちらは、ヴァンセンヌのサント・シャペルと呼ばれ、ヴァンセンヌ城の中にある礼拝堂です。ヴァンセンヌ城はパリの中心部から東に4kmほどの所にあるヴァンセンヌの森の北側にあります。

ヴァンセンヌ城は、1150年頃にフランス王ルイ7世によって狩猟をするために建てられました。ここには昔、狩りができるほどの広大な森があったようですが、現在ではとても想像がつかないほど周りは都市化が進みヴァンセンヌの森も綺麗な公園になっています。